

令和7年(2025年)11月吉日

保護者の皆様

札幌市立篠路西中学校
校長 門田 章人

「全国学力・学習状況調査」の結果について

深秋の候、保護者の皆様におかれましては益々ご清祥のことと存じます。また、日頃より本校教育活動につきまして、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、ご承知の通り、令和7年4月17日(木)に第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」に係る本校分の結果についての概要がまとまりましたので、お知らせいたします。

記

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査問題の領域・区分

- 【国語】…「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」
「言葉の特徴や使い方に関する事項」
- 【数学】…「数と式」「図形」「関数」「データの活用」
- 【理科】…「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」

3 生徒質問紙による調査

学力・学習状況調査と併せて、設問形式により生活・学習習慣、生活体験などに関わる生徒質問紙調査も実施された。

【生徒質問紙調査】から ～生活や習慣に関すること～

《今年度の調査結果から抽出した事項》

肯定的な回答の高いもの	肯定的な回答の低いもの
○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」	○「平日の授業時間以外の勉強時間」
○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」	○「新聞を読んでいますか」
○「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」	○「読書は好きですか」
○「インターネットを使って情報を収集できると思いますか」	○「ICT 機器で情報を整理できると思うか」
	○「授業が自分に合っていますか」

《学習時間に関わる事項》

<学習時間>	3時間以上	2～3時間	1～2時間	0.5～1時間	0.5時間未満	全しない	(すべて%)	
平日の学習時間 (塾・家庭教師を含む)	4.1	13.8	25.2	22.0	20.3	14.6	本 校 割 合	
	9.9	20.9	30.8	19.1	11.3	7.7	全 国 割 合	
休日の学習時間 (塾・家庭教師を含む)	4.9	4.9	12.2	22.8	26.0	26.8	本 校 割 合	
	5.3	8.5	18.7	25.4	24.1	15.4	全 国 割 合	
<PC やタブレット等の ICT 等 を用いた平日の学習時間>	4時間以上	3～4時間	3～2時間	2～1時間	0.5時間未満	全しない	無回答	(すべて%)
	1.6	1.6	5.7	16.3	35.8	35.0	4.1	本 校 割 合
	2.7	3.2	7.8	17.9	35.9	30.3	2.2	全 国 割 合

《今年度の調査結果分析》

今回の調査を通して、生徒の生活習慣、学習への意識、ICT の活用力、友人との関わり方など、さまざまな面が見えてきました。

まず、「いじめは許されない」「人の役に立ちたい」といった価値観については、多くの生徒が肯定的に答えており、学校や家庭での教育の成果が表れていると感じられます。こうした道徳的な意識や他者への思いやりは、これからの社会を生きるうえで大切な力であり、今後も育んでいきたい部分です。

一方で、学習習慣や自分で学ぶ力については、ばらつきが見られました。特に平日・休日の家庭学習時間に関しては、全国平均よりやや低く、学習時間の確保が課題となっています。また、ICT の活用についても、情報を調べる力は身につけてきているものの、情報を整理したり、発表資料を作成したりする力については、まだ十分とは言えず、今後の支援が必要です。

読書習慣についても、新聞や本に親しむ生徒の割合が低く、読解力や情報を読み取る力を育てるための取り組みが求められます。さらに、授業の満足度や「自分に合っていたか」といった項目でも肯定的な回答が少なく、一人ひとりに合った学びの実現には、さらなる工夫が必要です。

その一方で、「自分の考えを発表する」「話し合いを通じて考えを深める」といった協働的な学びに関する項目では、比較的高い肯定的回答が得られています。これは、本校の授業研究による主体的・対話的な学びの成果と捉えております。

学校では、こうした課題に真摯に向き合いながら、生徒一人ひとりの学びを支えるために、今後も努力を重ねてまいります。ご家庭におかれましても、日々の生活や学習の習慣づくり、ICT の活用、読書環境の整備などにおいて、ご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

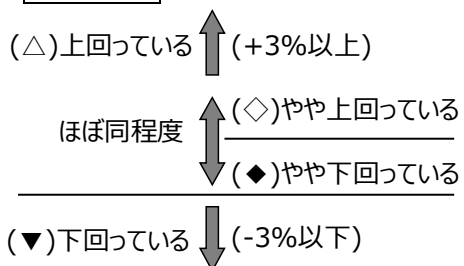
何より、私たちは保護者の皆さまと手を取り合いながら、子どもたちの成長を共に支えていきたいと願っています。今後とも、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

【国語】

教科に関する調査結果概要及び改善の方向等について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【区分及び領域】 1「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ほぼ同程度 2「情報の扱い方に関する事項」 未出題 3「我が国の言語文化に関する事項」 未出題 A「話すこと・聞くこと」 ほぼ同程度 B「書くこと」 (▼)全国平均を大幅に下回っている。 C「読むこと」 (▼)全国平均を下回っている。	1・文脈に応じた漢字運用や語句 を選択すること。 2. 未出題 3. 未出題 A・自らの考えを表現して記述する こと。 B・理由や根拠を考えたり、構成し て表現すること。 C・文章を読解した上で、考察する こと。文章構成を理解すること。	1「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ・文脈に応じた語句・漢字の使い方 を意識させる活動の充実。 2. 未出題 3. 未出題 A「話すこと・聞くこと」 ・ペアやグループでの自らの考えを伝え る活動の充実。 B「書くこと」 ・理由や根拠を明示する指導の徹底 と、文章表現力を高める活動の充 実。 C「読むこと」 ・構成や展開の違いに着目した読解 活動を通じて、文章の構造を意識し た読み方を促す指導の充実。

記号の意味



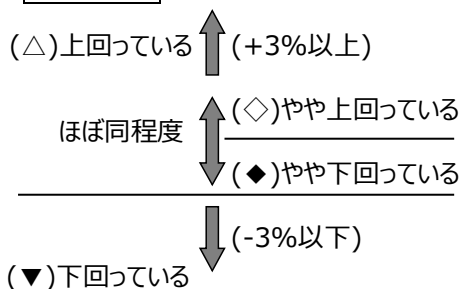
*「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内。

【 数 学 】

教科に関する調査結果概要及び改善の方向等について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【 区 分 及 び 領 域 】 「 数と式 」 ▼全国平均を下回っている。 「 図形 」 ▼全国平均を下回っている。 「 関数 」 ▼全国平均を下回っている。 「 データの活用 」 ▼全国平均を下回っている。	➤連続する3つの3の倍数の和が9の倍数になることの説明をすること。 ➤素数の意味を理解していないこと。 ➤平行四辺形の証明を振り返り、新たに分かることを選ぶこと。 ➤1次関数において、変化の割合を使うこと。 ➤相対度数の意味を理解していないこと。 ➤不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえ、説明できること。	➤任意の形に式変形を行ったり、論理的に説明する場面を多く設定する。基礎事項の定着のために、個に応じた反復練習の実施。 ➤証明した事柄から、論理的に考えられる問題の実践。 ➤基礎事項の定着のために、個に応じた反復練習の実施。 ➤基礎事項の定着のために、個に応じた反復練習の実施。 ➤複数のデータを比較しながら、根拠となる主張を数学的な表現を用いて説明する活動の充実。

記号の意味



*「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内。

【理科】

教科に関する調査結果概要及び改善の方向等について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【区分及び領域】 1「エネルギー」を柱とする領域 (▼)全国平均を下回っている。 2「粒子」を柱とする領域 (▼)全国平均を下回っている。 3「生命」を柱とする領域 (◆)全国平均をやや下回っている。 4「地球」を柱とする領域 (▼)全国平均を下回っている。	➤ 基本的な知識及び技能が身についていること。また、概念として身についていること。 ➤ 知識・技能を活用して適切に表現すること。また、実験結果を分析して解釈しモデルで表すこと。 ➤ 実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できること。また、探究の過程において、見通しについて分析し、解釈できること。	➤ 授業開始時に前時を振り返ることや、既習事項との関連付けを行うことで、知識及び技能の定着を図っていく。また、多面的な見方や考え方をみにつけ、知識を一般的な概念として理解を深められるようにしていく。 ➤ 既習事項との関連を図りながら、レポートや班内での交流場面で表現する場を多く設定していく。また、様々な実験でモデルの活用を図り、表現できるようにしていく。 ➤ 各単元で探究につながる実験を設定し、自ら実験を計画し、予想をする場を設ける。また、探究の過程においては、様々な視点から考え、共通点や相違点など多面的に分析し、解釈できるようにしていく。

記号の意味

(△)上回っている ↑ (+3%以上)

ほぼ同程度 ↔ (◇)やや上回っている
↔ (◆)やや下回っている

(▼)下回っている ↓ (-3%以下)

*「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内。